

また行きたい宿泊学習

私が思い出に残っていることは、2つあります。1つ目は、カレー作りです。班の人と役割分担して作りました。

「これ、どうやってやる?」

「いっしょにやろう」

と話しながら作りました。カレーはとてもおいしかったです。災害の時に生かしたいと思いました。

思い出に残ったことの2つ目は、ダイビングとシーカヤックです。ダイビングで海に入る前、友達ができました。とてもうれしかったです。シーカヤックは、班の人と協力して目的地まで行けてよかったです。楽しい時間が過ぎていき、まだやりたいなと思いました。もう次はないけど、また行きたいです。



(上川口小学校 5年 弘田 侑莉)

「そなえは大切」

6月22日、防災親子行事で地しんについて学びました。

まず、実さいに地しんが起こったところに行っていたげんじさんのお父さんの話を聞きました。水は出ないから雨水をくんで手洗いやトイレに使っていました。次にトイレを作りました。1はん1こ作りしました。わたしのはんはだんボールが小さかったから、大人の案で「下にだんボールをおいて大人用にしたら」と言ったので下にだんボールをおいて重ねるといいくらいの高さになりました。がんばるように作れました。おしっこなどもこなでゼラチンみたいにふくらんでいました。

最後に、体験談を聞きました。りおさんのお母さんは大きな地しんを体験したことがあって、4年生の時だったそうです。ちょうど同じ学年です。体育館はひなんして来た人でいっぱいでした。

地しんは、いつ起こるかわからないから日ごろからそなえることが大切ということが知れました。



(入野小学校 4年 樋口 晴子)

防災高齢者訪問

6月10日に、全校生徒で佐賀地域の高齢者のお宅を訪問しました。この活動は、防災アンケートや呼びかけを行い、地域と一体となって防災意識を高めることを目的として、毎年行っています。

今年は新たに「安否札」を作成して配りました。これは、災害時に避難したことを周囲に知らせるための札で、東日本大震災の際に釜石市で活用され、スムーズな安否確認に繋がったものです。

防災アンケートでは、安否札を知る人が大変少ないことが分かりました。今回の訪問を通して、その大切さを伝えることができたと思います。いざという時は、安否札が活用され、1人でも多くの方の命が救われることを願っています。

佐賀中学校は、これから黒潮町の「犠牲者ゼロ」をめざし、地域とともに防災活動に真剣に取り組む継続します。



(佐賀中学校 3年 西村 胡音)